

長田と静岡を結ぶ思い

静岡県沼津市労連 山田 秀一

死者二千五百七十四人、負傷者二万七千五百四十四人、倒壊家屋十五万五千二百五十三棟。予想される東海大地震の静岡県内

における被害想定です。ただし、これは突発地震の場合で、地震発生が予知され住民の避難が完了している場合の死者は三百七



え：内海聖子

十六人と劇的に変化します。東海大地震は世界一といわれる地震観測網を持ち、予知できることを前提として防災計画が立てられている地震なのです。ところが震度7という予想もしなかった大地震の発生は、防災関係者のもとより一般住民にも大変な衝撃を与えました。震度6で想定した防災計画に対する不安、果たして予知できるのか、津波危険区域での避難は間に合うのか……。阪神淡路大震災を契機に防災計画の見直しが始まりました。しかし、マスコミなどでも事あるごとに使われる「大震災を教訓に……」といった言葉は被災した人達に複雑な思いとなって伝わるのではないのでしょうか。有数の地震国でありながら、研究活動、観測体制、防災計画などが全国的に整備されておらず、何か事が起きなければ対策を講じない日本の体質。今回の地震は健忘症の私たちに下された、あまりにも巨大な鉄鎚となりました。東海大地震の被害想定も単に数字の積み上げではなく、倒壊家屋の中に「我が家」が含まれる事であり、死者の中に「近所の足の弱った祖母ちゃん」が数えられるかもしれない事なのです。私は長田などの被災地へ行ったことはありませんが、このことをきちんと自覚する事が、被災者の皆さんの思いに近づく一歩になるのではないかと考えています。一日も早い復興をお祈りするとともに、震災資料室の今後の活動に期待しています。



人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた

震災資料室

発行

〒653 神戸市長田区北町3-4-13
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第2号



1. 資料室展の開催のお知らせ
2. 重油回収に参加して
3. 長田と静岡を結ぶ思い

資料室展

3月3(日)・4(火)・5(水) 長田区役所にて

昨年末から始めていた資料収集は、北海道網走市他地域の「仮設支援NGO」をはじめ全国各地からご提供いただき展示会の開催の運びとなりました。ご協力くださった皆さんに改めてお礼を申し上げます。

資料展は区役所7階大会議室で入口をくぐると避難所関係の日誌やメモ、貼紙、写真が並び、続いて他都市や神戸市他部局から送られてきた資料が展示されています。又、京都大学防災研究所がボランティアで開発された地理情報システムがパソコンで利用できるようになっていました。会場中央ではビデオ放映や、コーヒーコーナーや、各種販売コーナーを設け、収益は区社協等各種団体へ寄贈されます。

同時に7階ギャラリーでは「災害復興住宅の一元的募集」の個別相談会も行われます。お誘い合わせの上、お越しください。

とき 1997年3月3日 午後1時～

5日正午まで

(詳しくは2面を見てください。)

